

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

『「まち」とともに歩み、ともに学び 自立できる子ども』の育成を目指します。
○自ら課題を見つけ、多様な解決をしていく子(知)
○個性を伸ばし、互いのよさを認め合える子(徳)
○自他の健康や安全に留意できる子(体)
○「まち」を愛する子(公)
○地域、日本、世界に目を向ける子(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

＜自他を大切にし、互いに認め合う力＞
＜人やまちと関わる力、コミュニケーション力＞
＜よりよく問題を解決する思考・判断・表現の力＞
＜自らを振り返り、調整する力＞

具体化した資質・能力

最適解を求め、自分の思考・判断・表現を振り返り、自分や物事をよりよくしようとする力
・試行錯誤する力(粘り強さの発揮) ・思考力(創造的、批判的、論理的、協同的等)
・メタ認知する力 ・学校生活、社会生活へ参画する姿勢

中期取組目標

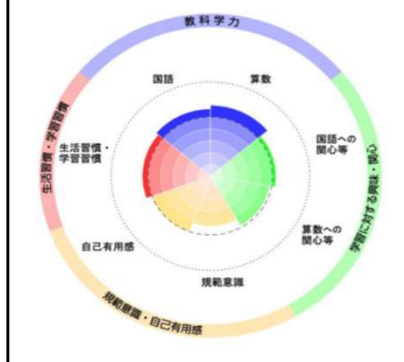
○「まち」とのつながりを感じながら、自分を見つめ 自分をつくる子どもを育みます。
今の大曽根小学校や「まち」のよさを持続して活かしながら、はじめは、大曽根小の子どもたちに身に付けて欲しい資質や能力について教職員間で共有し、育成するための教育活動について授業実践や研修等を通して見直します。そして、目指す教育目標や資質・能力育成のための教育活動の実践と改善に努め、教育目標や中期取組目標の達成度や子どもの資質・能力の育ちを検証します。
3年間を通して、望ましい判断や表現ができる子の育成、学びの価値を実感できる教育活動の改善、地域や保護者等学校関係者と共に育む学校づくり、全教職員のチーム力の向上を図ります。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (生きて働く学力) and 具体的取組 (問題解決の力やコミュニケーション力、思考・判断・表現の力を育む授業づくりや教育活動の改善を図る。)

学力向上に関わる本校の状況

本校児童は基礎学力が高く、基礎基本の学力については身につけている児童が多い。昨年度の全国学力テストの結果からも県平均や全国平均を上回っている。
しかし学力と比べると学習意識が低くなっている。学習に対して失敗や間違えを恐れ、自己表現が苦手と感じている児童が多い傾向がある。
そのため、自ら課題を見つけ、意欲と好奇心をもって主体的に学習に取り組むことが課題と考えられる。
昨年度は生活・総合の授業研究を行い、相手意識をもてるようになったことや課題に興味をもち自ら動いて取り組もうとする児童の姿が見られたことが成果となって表れてきた。



今年度の目標

一人一人が問いをもち、目標をもって追究し続けて学びを深め自信をもって表現する子の育成を目指して研究研修を充実させていく。

目標を実現するための具体的行動プラン

・教科担任制(主に3年生以上)を取り入れ、教師が複数のクラスで授業改善と児童理解を図っていく。また問題解決の力やコミュニケーション力、思考・判断・表現力を育む授業作りを目指す。
・学年ブロックや専科、職員との連携を密にし、日々の授業作りや児童理解を努めていく。
・学習中にお互いを認め合える関係づくりに努め、自己肯定感を高めながら主体的に学習に取り組めるような授業作りを目指す。
・取り出し学習では、学習に対する意欲や自信を高められるようにしていく。
・情報・視聴覚に重点をおき「一人一人が問いをもちながら」学習をすすめられるように授業研究を行っていく。コミュニケーションの1つとしてICT機器を活用することで、児童同士の思考共有を円滑に行い、考えを広げたり、深めたりする。
・上半期に身につけた力をいかして、自ら学びを調整する力を高めていく。
・自己肯定感を高めながら主体的に学習に取り組めるような授業作りを目指し、教師と児童のみのやり取りに終わらず、児童同士での学び合いができるようにしていく。
・研究授業を通して教師の授業力を高めていく。

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (豊かな心) and 具体的取組 (教育活動全般で、互いに認め合う姿を価値付ける指導や支援を行う。)

豊かな心に関わる本校の状況

・互いを認め合う風土づくりを続けてきたことで、友達と協力して活動することが楽しいと感じたり、友達のよさに目を向けることができた児童が多い。たてわり活動では、下級生を気遣いながら行動する上級生が多く見られる。
・友達の考えや思いを大切にす一方、相手の思いを自分の考えや行動につなぐことがまだできにくい傾向がある。自分たちの考えを生かしてすぐに行動に移すことに不安を感じる児童の姿も見られる。
・創立60周年にあたる今年度、多様な場所、場面や人とかかわることを意識し、様々な考えを伝え合うことで自分の考えを広げられることをさらに重視したい。そして、自分のできることを実践し、よりよい生活をつくっていくことのできる力をつけていくことが本校の児童にとって大切である。

今年度の目標

創立60周年の節目に、子どもが様々な人、もの、こと、地域とかかわり合いながら、よりよい生活づくりをしていくことを積み重ね、自己肯定感を高めていく。

目標を実現するための具体的行動プラン

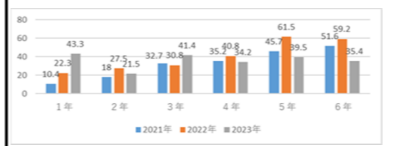
・創立60周年記念にかかわる学校行事で、豊かな体験ができる活動を積み重ね、子ども自らが成長を感じられる振り返りを行う。
・児童自ら課題を見つけ、生活をつくる取組の発信を児童会から行い、全校で取り組む。行動目標ではなく、代表委員会テーマ(思考目標)につなぐ。
・児童主体のたてわり班やそれをベースにした活動を継続して行う。また、学習や生活の場で学年交流や異学年交流を活用していく。
・学年、クラブ活動、児童会活動などでみとった子どもの姿は教職員間で積極的に情報交換し、効果的な支援を行う。
・保育園、幼稚園と連携し、交流の計画を立てる。
・話の聞き方、自分の考えをのびのびと表現できる風土づくりを行う。
・児童がまちとのつながりを意識できるように、まちの材の発掘をする。
・11月の創立60周年記念式典を中心に、学校や地域、かかわる人々をさらに大事に思えるような活動を進める。
・上半期で身に付けた力を教職員で共有化し、その力を生かすことができる活動づくりを行う。
・たてわり活動の「なかよしデー」に向けて計画、実行し、自分たちのよさを生かし合いながら集団の活動を進めていけるようにする。
・人権週間では、例えば手話やポッチャなど、体験的な活動を通して人権について考える機会を設け、自分の身近な生活の場面の自己の言動につないでいけるようにする。
・近隣の保育園や幼稚園との交流に取り組む。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健やかな体) and 具体的取組 (常に安全に配慮した教育活動に努める。)

健やかな体に関わる本校の状況

・R5年度の来室者は、4096人。起床後、不調を感じても保護者に伝えないまま登校するなど、自分自身の健康管理について意識が低い児童も見られる。
・R5年度の歯科検診では、う歯での受診勧告の児童が全校で8%に対し、歯垢で受診勧告の児童は22.4%であった。特に仕上げみがきが少なくなると推測される3年生以上から歯垢での勧告が増加傾向であり、児童自身の歯みがきに対する意識が高いとは言えない。
・健康診断では、令和4年度に引き続き、視力低下が顕著である。
・健康診断結果では、1・2年生の両目裸眼視力A未満の児童は、2022年度22%から2023年度32%と増加している。高学年は、夜間コンタクトレンズ装着の治療等により視力が回復傾向の児童も見られた。



今年度の目標

子どもが自分の心とからだに向き合い、健康で安全な生活について考えたことを実行していく。

目標を実現するための具体的行動プラン

・感染症予防や熱中症予防、けが予防など安全に留意し、子どもたちが安心して活動や運動できる環境を整える。
・健康診断では、学校医と連携し、子どもが自分のからだの状態を知り、心とからだの成長について見通しをもつことができるようにする。
・「石けんとハンカチを使って、きれいに手を洗い、元気にすごそう!!」をテーマに4年生以上が全員参加の学校保健委員会を開催する。「石けんでの手洗い後、身につけているハンカチでふく」ことを習慣化するために児童が主体的に取り組む活動を実施していく。
・養護教諭や栄養教諭がTTで授業に関わり、健康な生活について、関心を高められるようにする。
・後期の計測や歯科検診では、自分の成長や生活習慣を振り返る機会を持てるようにする。
・歯科巡回指導では、令和6年度から4年生全員に「歯と口の健康チェック」を実施し、子ども自身、家庭の歯みがきに対する意識を高めるきっかけとする。朝晩の正しい歯みがきの定着など、具体的な健康行動に結びつくよう発信していく。
・委員会活動を通して、手洗いの大切さや食べ物の栄養、食事のマナーについて知ることで、子ども自身が健康課題に気づき、考えたことを全校や地域へ発信する機会を持てるようにする。